

NPO法人  
ヒマラヤ保全協会

The Institute for Himalayan Conservation Japan



ヒマラヤの大自然を未来につなぐ国際環境NGO

ネパール～ヒマラヤ～世界とつながる会報誌

# Shangri-la

シャングリラ



- 🌲 ネパール2025年度11月出張報告
- 🌲 ムスタン・エコミュージアム再生事業の様子
- 🌲 パウダル村サクラ100本プロジェクト

ムスタン・エコミュージアムとニルギリ峰  
(撮影: 稲田喬晃)



100円でヒマラヤに1本の  を植えよう!

One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.

# 現 地 報 告

IHC 会長

相馬 拓也

現地フィールドでの活動をお届けします

## ムスタン・エコミュージアムの再生復興プロジェクト始動！

### ❖メイン展示室のコレクション展示替え

IHC では 2025 年 11 月より、ムスタン・エコミュージアムの再生復興プロジェクトに着手しました。ムスタン・エコミュージアムはゾムソム村の中心部にあり、「ゾムソム地域開発センター」の名称で 1996 年に開館しました。現地の民俗文化や生活向上のため、伝統衣装や民具、2,000 点以上の薬草標本を収蔵しています（図 1-1）。また、2 階部分は地元の仏教僧たちの瞑想や祈りにも利用された寺院としても機能していました。しかし、2015 年 4 月 27 日に発生したネパール大地震によって 2 階部分が完全に崩落し、多数の剥製標本やコレクションを失ってしまい、寺院の仏殿は近所の学校へ移されました。

今回 11 月の渡航では、メイン展示室の徹底的な清掃と、コレクションの整理、展示場所の変更などを実施してきました。展示ケースは全部鍵付きで電飾もなされており、当時としては立派なものだったようです（図 1-2）。それだけに、開けるのが 20 年ぶり？・・・と思わせるようなケースもあり、コレクションの整理と清掃で結局 1 週間ほどかかってしまいました。民具コレクションの保存状態はあまりよくありませんでしたが、100 年以上前の貴重な生活道具が多数見付き、その一部を壁展示として公開してきました（図 1-3）。

次回の渡航時には、壁面に川喜田先生の功績やエコミュージアムの沿革など、より日本や本会とのつながりのわかる展示を増やしてきたいと思います！



図 1-2 展示替え前の状態



図 1-1 展示室南側より

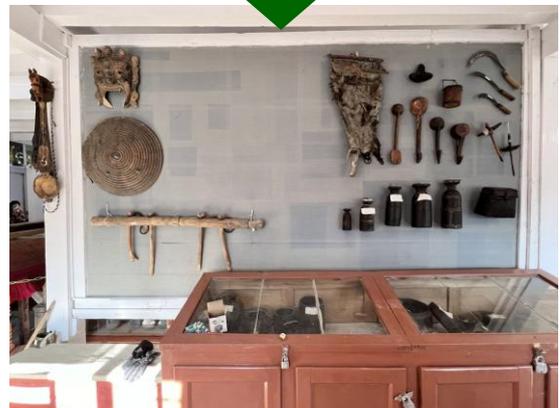


図 1-3 民具の壁展示に変更。  
まだ途中なので、コレクションを追加でディスプレイ予定

## ❖ IHC ライブラリー開設とミュージアム蔵書整理

本館に設置された図書室には、2000冊もの書籍が積み上げられており、書架を新設して新たな図書室として整備してきました。蔵書のなかには、英語の高額書籍や貴重書、ネパール語の貴重文献も多数含まれていました。日本語の書籍もあり、90年代にポカラからの舗装道路もなかったような時代に、よくぞ書籍を運搬したものだ・・・と先人の努力に目頭が熱くなる思いでした。まさにミュージアムの知の財産です。

ミュージアムを管理していただいている、ジヨムソム母親組合（マザーズ・グループ）のお母さんたちと、書棚に平積みされた書籍をひとまず運び出しましたが、これがかなりの重労働。5人がかりでも2時間を要する量でした（図 2a~d）。

お母さんたちと相談すると、地元の大工さんを紹介いただけるとのこと。寸法などの詳細を打合せし、1週間ほどで木材調達と製材をしていただけたとのことでした。幸い帰国の前々日までに書棚が完成し、エコミュージアムまで運び上げて、あとは現場で寸法の詳細を合わせていきました。おかげ様で、立派な杉板材で高さ220cm/8段の書棚4面が完成！

山積みの本を、とりあえず英語・ネパール語・日本語に分けて入れてみると、見る見るうちに書棚が埋まり、せいぜい1/5を残すばかりに。これからは、日本語の語学や地理書のほか、子供向けの絵本なども増やしていきたいと思います。



a. 改装前の書庫は本が雑然と平積み・・・



b. とりあえずすべての蔵書運び出す作業。  
その数ざっと2,000冊



c. すっきりきれいになった書庫



d. 書棚が配架された新設 IHC ライブラリー。  
ネパール語文献の収集と、日本語の本も今後増やす予定。

図 2 新設の書架でよみがえった IHC ライブラリー

### ❖ポカラのサクラ・プロジェクト経過報告

バシュンドラ公園とポカラ駒ヶ根友好公園のサクラ苗は、植栽からもうすぐ2年ということもあり、しっかり根付いてきた印象です（図3）。寒暖差や降雨差が一年を通じて多いためか、まだ少し細いままですが、確実に背を伸ばしてきています！



図3 着実に育ちつつあるポカラのサクラ

### ❖パウダル桜 100 本プロジェクト

IHC では 2026 年度からは、当会の始まりの土地シーカ谷のパウダル村で、サクラ 100 本を植える計画をしています。パウダル村は 1974 年に、川喜田先生たちがロープラインを架線した初めての場所です。川喜田先生の享年 89 歳にかけて、89 本を植栽しようと考えています。

パウダル村は人口 300 名程度の小さな村で、ダウラギリ峰の眺望を楽しめる美しい村ですが、メインのトレッキング街道からは少し外れてしまっています。そのため、村の街道沿いを桜並木にすることで、観光客を呼び込む景観創成植林を実施したいと考えています（図4）。

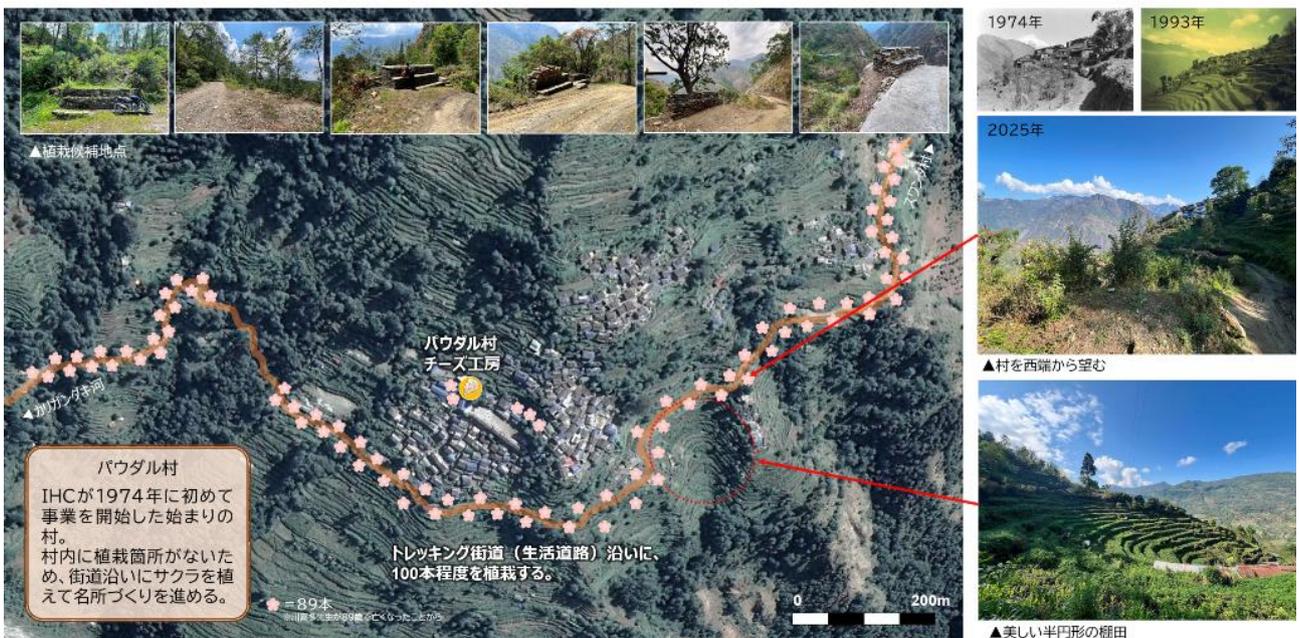


図4 パウダル村サクラ 100 本プロジェクト植栽プラン図

# 活 動 報 告



環境保全や環境教育など現場のさまざまな活動をお届けします

## 世界に広がるヒマラヤ保全協会の活動！

❖ウズベキスタン、陶器の町リシタンのノリコ学級で図書室を整備しています 

2025年11月に、当協会・会長とかねてからご縁のあった、ウズベキスタン共和国リシタン市にある日本語学校・のりこ学級（Noriko Gakkyu Yapon Maktabi）に図書室の整備をしてきました（[図 5-1](#)）。のりこ学級は、誰でも無償で日本語が学べる教育施設として中央アジアで高い知名度を誇っています。故・大崎重勝さんによって1999年11月19日に開校し、現在までに数百人の子どもたちが日本語を学び、日本への留学や就業を達成しました。現在6歳～20歳までの約80名が在籍しています。



整備前の部屋

本協会では、かねてから校長のガニシエル・ナジロフ氏と共同で、農業・植林を軸とした教育プロジェクトなどを計画しており、その初めてとして未整理になっていた同学校の蔵書整理のために、壁面書架2面の設置を実施しました（[図 5-2](#)）。リシタンはタジク人が多数を占める町でもあり、古来の職人の技がいまに生きる土地柄でもあります。家具職人が天井まで届く壁面書架を丁寧に組んでいただき、その迫力に子どもたちも驚いていた様子でした。



のりこ学級では慢性的に人手不足で、設備や図書の整理などが追い付かない状況にあります。今後も、IHCとして日本文化の普及と環境教育にも取り組んでいきたいと考えています。



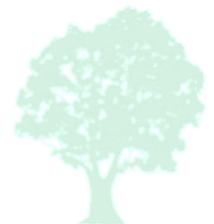
壁面書架で図書室に！  
まだまだ本が入りそうです。



図 5-1 のりこの学級の生徒たち

図 5-2 のりこ学級に新設のIHC ライブラリー

# 学 び の 館



環境・動植物・地理学などに関するトリビアを共有します

## ネパールのシンボル動物&植物あれこれ



国鳥  
ニジキジ

*Lophophorus impejanus*  
キジ目キジ科



国章  
「母と母国は天国より  
素晴らしい」



国花  
シャクナゲ

*Rhododendron arboreum*  
ツツジ科ツツジ属の常緑高木。世  
界でもっとも大きい花卉が特徴



聖花  
ゲンダ・プール

(マリーゴールド)  
*Tagetes spp.*

キク科コウオウソウ属(マンジュギク属)  
飾る人に幸運と繁栄をもたらすと信じ  
られ、ティハール祭や新年祭ビスケット・  
ジャトラで用いられる。

国旗

ネパール王国時代(ゴルカ  
朝)の王家シャハ家と宰相  
家ラナ家の紋章を統合し  
た二重国旗



聖樹  
ピパル

(インドボダイジュ)  
クワ科イチジク属 *Ficus religiosa*  
仏陀が悟りを開いた聖なる木。ネパール  
国内の街路樹のほか、トレッキングルー  
トの休息所に2本セットで植えられるこ  
とが多い。



# 事務局 だより

IHC よもやま通信欄

## ヒマラヤ写真だより



ヒマラヤの麓にある学校では、厳しい環境の中でも子どもたちが毎日学びを続けています。教材や設備は十分ではなく、家の手伝いと勉強を両立する日々。それでも文字を覚え、計算を知り、少しずつ世界を広げていきます。

教育はすぐに答えをくれるものではありませんが、未来を選ぶ力を育ててくれます。この小さな教室から生まれる希望に、遠くに暮らす私たちもそっと寄り添い、支え続けていきたいです。

(撮影：稲田喬晃)

## 寄付で支援する

ヒマラヤ地域を中心に、100円で1本の木が植えられます。1口3,000円から何口でも結構です。右記の振込み先にご送金ください。

## マンスリーサポーターになる

毎月1,000円からマンスリーサポーターになることができます。マンスリーサポーターの皆様には、「活動報告書&計画書」年1回をお送りします。

## 会員になる

年会費：個人会員 5,000円 / 団体会員 30,000円  
会員の皆様には、現地の活動が盛りだくさんの会報『シャングリラ(Shangri-la)』をお届けします。

■ みずほ銀行新宿南口支店  
普通 2005209  
NPO 法人 ヒマラヤ保全協会

■ 郵便振替  
00100-0-709154

※銀行振込みをご利用いただいた場合は、ご氏名(ふりがな)とご住所を、e-mailにてご連絡ください。

※詳しくは、NPO法人ヒマラヤ保全協会のホームページをご覧ください。

<https://ihc-japan.org/>

## 100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！

たくさんのご支援お待ちしております！

ヒマラヤ保全協会は50周年を迎えました！



シャングリラ第118号 2026年2月20日発行  
編集・発行 NPO法人 ヒマラヤ保全協会

【e-mail】 [ihcjpn@yahoo.co.jp](mailto:ihcjpn@yahoo.co.jp)

【website】 <http://www.ihc-japan.org>